

重大事故対策 – 自動化した常設設備ではなく可搬型設備を採用した理由 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.123

放射性物質の拡散抑制対策として使用する放水砲やがれき撤去に使うホイールローダは、自然災害により壊れて使えなくなならないように建物内などに常設し、かつ、操作を自動化すべきだと思うが、なぜ可搬型設備を採用したのか。

第24回ワーキング
(2023.7.6) で議論

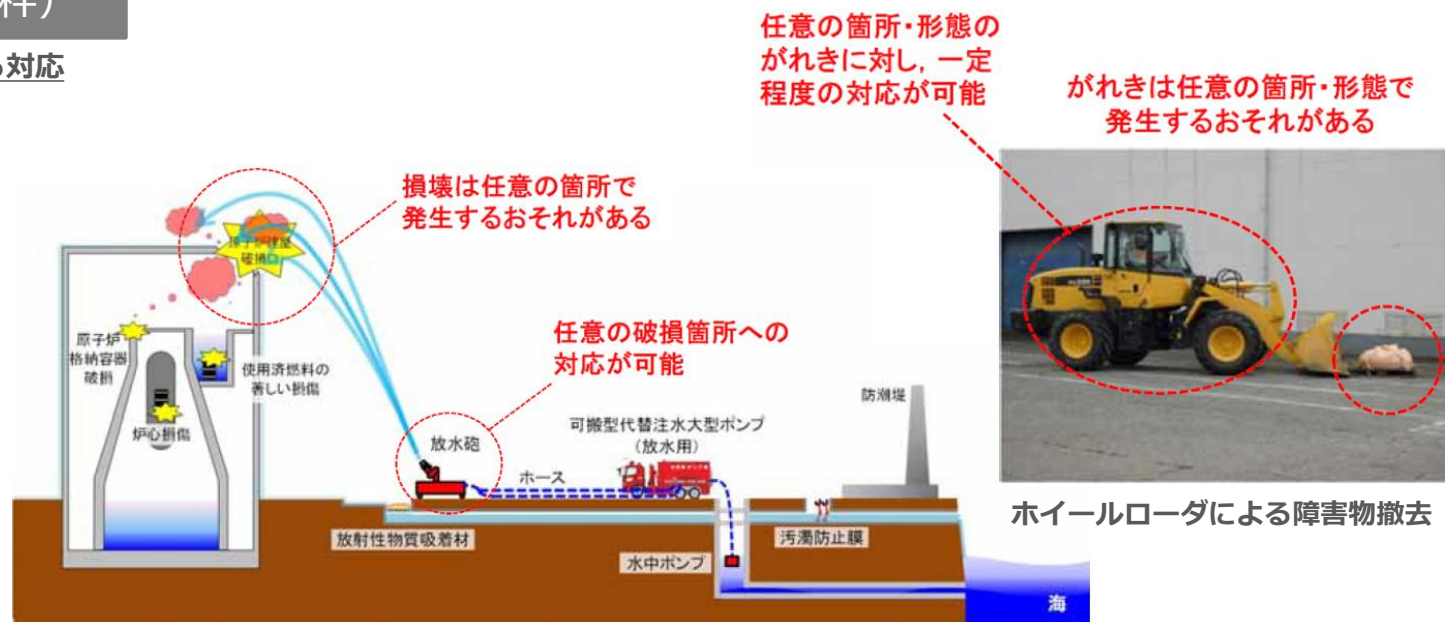
ワーキングチーム検証結果

建屋の損壊箇所やがれきの堆積場所はあらかじめ特定できないため、柔軟に対応できる手動の可搬型設備を用いていること、また、可搬型設備は、自然災害で一度に全て使えなくなならないよう高台2か所に分散して保管していることを確認。

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

○想定を超えた事象に対する可搬型設備による対応

- 放射性物質の拡散を効果的に抑制するため、建屋の損壊箇所に向けて放水する必要があるが、自然災害等に対して建屋の損壊箇所をあらかじめ特定することは困難
- 放水砲による放射性物質拡散抑制では、可搬型設備を用いることにより放水箇所や放水のタイミングについて柔軟に対応する。
- ホイールローダによるがれき撤去についても同様に、がれきの発生箇所や形態をあらかじめ特定するのは困難なため、手動の可搬型設備を使用
- 可搬型設備は、竜巻などにより同時に使用できなくなならないよう100m以上離し、2か所に分散して保管
- 保管場所は津波の影響を受けない高台を選定



可搬型代替注水大型ポンプ及び放水砲による放射性物質の拡散抑制